「青山経営論集」を祝って

院長　深町　正信

このたび，経営学部創設35周年を記念して「青山経営論集」第35巻第３号を発行されることを心よりお慶びを申し上げます。

学部の歴史を顧みますと，1949年（昭和24）に国の学制改革が行われ，翌年４月に学校法人青山学院大學が発足しました。初めは文学部，商学部，工学部の三学部でしたが，その後，商学部が経済学部に編成替えされ，更に，母体の商学科が新しく経営学部として1966年に創設されました。商学科の歴史は戦前の専門学校に始まり，これを一つの柱として新制大學が出来たのであります。

1958年に経済学部長から大学長に推挙され，1960年（昭和35）からは，院長も兼務された故大木金次郎先生は強いリーダーシップをもたれ，総合大學へのヴィジョンのもとに，学院の運営にあたられました。順次に大學法学部，理工学部を新設され，各学部に大学院，研究科と修士，博士課程が設置されました。又，国際化時代に先駆けて1982年には国際政治経済学部が創設され，広いキャンパスと諸建造物が備えられました。

半世紀前までの日本では，大學進学率が数パーセントであったものが，戦後の経済成長とともに大學，短期大學進学率は40数パーセントとなり，高等教育を受ける者の数は社会構造の変化とともに激増しました。

その社会変化の中で，青山学院大學の経営学部においては，常にその教育の目的を明確にもち，研究の成果も熱心に追求されてきました。歴代の大学長，部長並びに教授方や関係するすべての教職員の皆様の並々ならぬご尽力とご指導，研鑽の賜物によって今日あることを思い，心からの敬意を表するものです。

今，日本の社会は情報化，国際化，少子化，高齢化と環境問題の中でIT革命，金融機関の再編成，規制緩和という問題が渦巻き，激しく移り変わる世界の状況とともに，それがますます複雑に多様化しています。社会の構造と種々の組織変容の中で，その学問の内容も変化しつつあります。経営学部は絶えず改革をなしつつ，更なる学部の充実と発展とに努めいることに対しても深く敬意を表するものであります。

経営学部は，これまでその教育目標として「現代の企業経営を理論的，実証的に理解するとともに，そこで求められる専門知識と実務的な技術を身につける人材の育成

を目指す」ことにより，今日まですでに国の内外で活躍する社会人，企業人を約20000人送り出しています。そして，昨今では毎年確実に約20人からの会計公認士を合格させていることも誠に喜ばしいことであります。

最近の経営学部では「AOYAMA CYBER CAMPUS」プロジェクトの中心となって，仮想空間の創った企業や工場を舞台に企業経営のシュミレーションを試み，各学生のコンピューター技術とコーポレーション，バーチャル　イングリッシュの力をつけることに努力されていることは，ただ単に青山学院大學にとってのみならず，将来の日本の社会にとっても大きな希望の礎であります。

青山学院大學経営学部の卒業生が様々な職業や職務，各界において今後ますます幅広く活躍されることを期待します。IT革命の進む21世紀の社会における経営学の在り様と，その展望を予測することは難しいことです。しかし，社会を形成する人間の意志の大切さの基本は変わりません。今後とも，経営学部が，青山学院の建学の精神であるキリスト教信仰の愛と奉仕に基づく人生観，世界観，価値観を探求し，その教育方針のもとで発展することを期待します。学院のスクール　モットーである「世の光，地の塩」となる人間の育成のためによきご指導をお願いして，お祝いの言葉といたします。